異例ずくめで成立した今年度予算 医療改革に向けた政府の方針とは

少数与党の下で開催された今年の通常国会では、政府予算案が衆参両院で修正される等、異例の展開を辿った。与野党協議で高額療養費制度の在り方や医療費の削減も議論されたが、結局、財源の議論が先送りされたとの批判も有る。その後、政府の「経済財政運営と改革の基本方針」(骨太方針)や「新しい資本主義のグランドデザイン」も閣議決定されたが、政府の医療制度改革の方向性に懸念を抱いている人も多いのではないだろうか。6月25日の第89回「日本の医療の未来を考える会」では、厚生労働省大臣官房危機管理・医務技術総括審議官の佐々木昌弘氏に、今年度予算や骨太方針等に込められた国の考えや、病院経営戦略への影響等を講演して頂いた。

厚生労働省大臣官房危機管理・医務技術総括審議官
佐々木 昌弘氏

挨拶

原田 義昭氏「日本の医療の未来を考える会」最高顧問(元環境大臣、弁護士)

米国のトランプ大統領のイランへの攻撃には驚きましたし、賛否も有ります。しかし、結果的にイスラエルとイランの停戦合意を実現した事は評価する必要が有るでしょう。米国の政治や経済の動きは、複雑な世界情勢に大きな影響を及ぼします。トランプ大統領の動きについては、日本も批判的な目を持ちながら追っていかなければならないと思います。

門脇孝氏「日本の医療の未来を考える会」医師団代表(日本医学会会長、虎の門病院院長)

院長として病院経営に当たっていますが、この1年、急速に経営環境が悪化しています。良い医療を提供しよ[redacted]者に[redacted]現在の状況は非常に厳しい。佐々木氏は、厚労省の職員の中でもオールラウンド[redacted]で、病院にとって知恵袋的な存在です。本日は今後の病院経営に有益な話が聞ける事を楽しみにしています。

続きを読むには購読が必要です
詳しくはホームページをご覧下さい